

⑥Int.Cl.<sup>7</sup>  
B 63 B 21 / 29  
B 63 B 21 / 34

⑦日本分類  
B4 C 11

⑧日本国特許庁

⑨実用新案出願公告  
昭51-49754

## 実用新案公報

庁内整理番号 6669-36

⑩公告 昭和51年(1976)11月30日

(全2頁)

BEST AVAILABLE COPY

### ⑪水中アンカー

⑫実 願 昭47-82157  
⑬出 願 昭47(1972)7月13日  
公 開 昭49-40996

⑭昭49(1974)4月10日

⑮考 案 者 出願人と同じ

⑯出 願 人 大沢佑吉

東京都杉並区今川3の5の12

⑰代 理 人 弁理士 磯野政雄

(出願人において、実施許諾の用意がある)

### ⑱実用新案登録請求の範囲

上部に開口部4を有する袋状の容器1の下部周面に複数の薄金属板製弾性フック2をその先端2

### ⑲考案の詳細な説明

本案は釣針・ボート・ヨット等の比較的小さい舟に適する水中アンカーに関するものである。

例えば、ふな釣等の釣針は風や潮に流されないように舟の3箇所位を鉄製フックアンカー(錨)又はこれに代る重石を紐条につなぎ止めて水底に沈め、一定の位置にとどめておくことが普通である。ところが従来のフックアンカーは、これを水底に引掛けるには具合が良いが、これを引上げる際、水底に食込んだり、藻等に絡まつたりしてそのフックの掛合を外すのが非常に面倒で手間がかかる。往々にして錨綱又はアンカーを損傷することもある。また、重石のアンカーはフックがないから水中で移動するおそれがある。そして、アンカー1個当り約5〜7kgを要するから、車で釣場

に運ぶことは別として携帯するには重くて不便である。そこで、現場で調達すれば良いが大きな石が常にあるとは限らない。また、あり合せの石では紐条でしるものが仲々面倒である等の欠点があった。

本案は上記の欠点を除く便利なアンカーを得る

ことを目的とする。

図面について説明すると丈夫な布袋又は網袋等で作った筒形の容器1の下部外周面に薄い金属板から成る弾性フック2を適当な間隔をおいてリベット3、ねじ等で先端2を向上向きに固定したことを要旨とする。4は容器1の開口部、5はその開口部周縁に設けた紐条通し孔、6は紐条、7は布袋1の底部に設けた水抜き孔である。この水抜き孔の代りに底部全体を網底にしてもよい。

10 本案アンカーは、容器1の中に石・鉄塊・砂等重石になる物を詰め込み、紐条6を錨綱8を介して第3図示のように例えば舟Sの後舷2箇所、前舷1箇所につないで水底に沈めて使う。沈んだ容器1は、その複数のフック2の何本かが水底に引掛かつて舟Sを停止させる。そして容器1を引上げるときは、錨綱8を引張つてフック2の掛合を外すのであるが、ある一定以上の方がかゝるとフック2の先端部2が適度の弾性により下方にのびて掛合が外れる。その先端2は外れた後、また原形に復元する。

20 本案は上記の構成であるから、アンカーの固定効果は従来のフックアンカーと同様であるが、その掛脱操作はフックの適度の弾性により従来のものより取扱いが極めて簡単であり、紐条やアンカーを損傷することがない。また、袋物1の中には大きな石は勿論のこと、砂・小石・鉄塊等重石になるものは何でも収容できるから、空の軽い袋物だけ携帯し、現地で詰め込むことができる。従つて、わざわざ重い石等を携帯する必要がないから労力が少なくて済み極めて便利である。

30 なお、布製容器1の底部に水抜き孔7を設けた場合において、砂又はこまかい石等を重石にするときには、そのまゝ入れたのでは流失してしまうから、内底にビニールシート又は障板等を敷いてから詰めるものとする。また、容器1を網袋状にしたときは、その網目より大きい石等を重石にして詰めることになる。

(2)

実公 昭51-49754

3

4

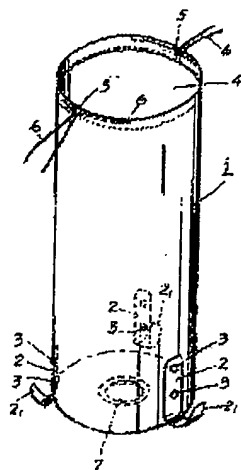
## 図面の簡単な説明

第1図は本発明水中アンカーの斜視図、第2図はそのフックの斜視図、第3図は使用例を示す斜視図

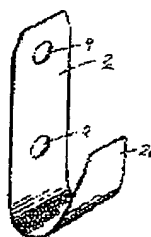
図である。

1……容器、2……フック、5……紐索通し孔、  
6……紐索、7……水抜き孔。

第1図



第2図



第3図

